

令和4年度「知事と市町長の円卓対話」（松阪市）概要

- 1 対話市町 松阪市（松阪市長 ^{たけがみ} 竹上 ^{まさと} 真人）
- 2 対話日時 令和4年8月20日（土）14：30～15：20
- 3 対話場所 松阪市産業振興センター（松阪市本町 2176 番地）
- 4 視察場所 三井家発祥地、旧長谷川治郎兵衛家
- 5 対話項目
 - （1）カーボンニュートラルの実現に向けた支援の充実について
 - （2）マッチングサイト事業の実施について
 - （3）女性の社会進出への支援について
 - （4）三井越後屋創業 350 年に向けた協力について

6 対話概要

対話項目（1）カーボンニュートラルの実現に向けた支援の充実について

（市長）

カーボンニュートラルの実現に向けて、松阪市では、令和4年度に市役所本庁舎等に太陽光発電設備を設置し、EVスタンドについても3基設置予定です。

また、企業に対して、省エネ最適化診断等に対する事業補助金を実施しています。

松阪市は、広大な面積を有しており、その面積の約7割が森林に囲まれています。その木材や間伐を利用したカーボンニュートラルを推進していくために、J-クレジット制度にも参画していきます。

現在、国の各省庁においてカーボンニュートラルに関する様々な補助金制度がありますが、それらは、多岐複雑であり、制度内容を把握・理解するのが困難となっています。ぜひ、三重県において、それらの補助金制度を分かりやすくまとめて、一元化していただきますようお願いいたします。

また、県独自の補助金も創設していただければありがたいです。

（知事）

国による補助金制度が分かりにくいのは、そのとおりです。というのは、この制度が始まったばかりであることが原因の一つです。

また、国の来年度予算について、カーボンニュートラル（GX）・少子化・国防費を3つの大きな柱として、しっかりと予算を付ける方針を定めています。

脱炭素については、パリ会議での制定を受け、国で目標を定め、各省庁において

制度を制定していますが、まだきちんと整理できておりません。

三重県では、令和4年3月にカーボンニュートラルにおけるプロジェクトを推進するための本部を設置しました。そのプロジェクトは、「ゼロエミッションみえ」と言い、6つの取組を柱としてプロジェクトを遂行しています。その例として、洋上風力発電・森林整備や木材化石燃料（バイオチップ）、自動車分野のEV化に対する支援、四日市コンビナートの転換の検討促進などがあります。

三重県は、太陽光発電が全国で9位の発電量があり、風力発電は全国5位であります。今後は、陸上風力発電から洋上へと広げていくためのテストを進めていきます。

市町への補助金制度に関する助言は必要です。環境省の補助制度として「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」があり、活用に関する助言を県としても考えていきたいです。県の補助制度については、市町の意見も聞きながら、どんなことができるかこれから議論していきたいと思います。

対話項目（2）マッチングサイト事業の実施について

（市長）

このマッチングサイト事業の実施については、昨年度から県に要望していますが、いい答えをもらえていません。この円卓対話で再度、お願いさせていただきます。

マッチングサイト事業については、すでに全国で27県が導入しています。また、そのアプリやサイトでは、AIで相性を判断して結果が出ているというデータもあります。愛媛県では、AIを導入して、マッチング率が13%から33%に上昇しています。

松阪市でも導入の検討をしましたが、人口16万人の規模ではロットが少なく、マッチングが出来ないことが分かり断念しました。よって、三重県で導入をしていただきたいです。

コロナの影響もあり、松阪市の出生数は、私が就任した平成27年は1,300人超でしたが、令和3年は1,000人でした。

また、婚姻数も例年800組の届出がありましたが、令和3年は600組弱と激減しております。

ITを活用しながら、若い皆さんに出会いの場を提供していただきたいです。

（知事）

重要な話で、国もこの秋からさらに少子化対策についていろんな検討をすることになってくると思います。社会保障・人口問題研究所によると、2065年には日本の人口は8,800万人に減る試算が出ています。人口が減ると、経済力はどんどん落ち、

円の力も落ちて、海外旅行にも行きにくくなります。また、防衛費も捻出できなくなり、他国からの侵略を受けることにも繋がります。県外に本社を置く企業は、人口の少ない県からは、支社などが撤退し、働く場がなくなっていく可能性もあります。それだけ人口減少は重要な問題であります。

三重県も平成 19 年まで人口が増加していましたが、その後、減少を続け、平成 22 年は 188 万人いた人口が、10 年後の令和 2 年には 178 万人と、10 万人減少しています。

この県内の人口減少を止めるために、移住者を増やす、県外の大学に行った人に戻ってきてもらう、子どもを産みたい人が産めるようにする、などの対策があります。子どもを産みたい人が産めるようにするためには、出産にかかる費用の問題がありますが、国において出産にかかるお金を社会で負担する制度を検討していくと思います。また、子育てしやすい環境づくりとして、例えば育児休業をとれるようにすることも大切です。

三重県では、今年 4 月に「人口減少対策課」を設置しました。こうした課の設置は全国でも三重県だけであり、全都道府県の先駆けとして、しっかり人口減少問題に取り組んでいきます。その中で、今回提案のありましたマッチングサイト事業に関しては、自治体が運営する、安心安全に利用できるサイトとして需要はあると思っています。導入済の他県を参考にしながら、検証を進めていきたいと思っています。

また、三重県では、「みえ出逢いサポートセンター」を開設しております。AI の導入はありませんが、そういった土台もありますので、これからどのように取り組んでいくか考えていきたいと思っています。

対話項目（3）女性の社会進出への支援について

（市長）

この項目を選んだのには、2つの背景があります。一つはコロナによって、全国の飲食店やサービス業で、令和 2 年 5 月で約 100 万人の失業者が出ました。そのうち約 70 万人が女性です。それらの方は、非正規雇用の方が多く、育児にひと段落した女性が社会復帰するにあたり、正規ではなく非正規採用された方が大半を占めていると思われれます。それらがコロナによってすごく可視化されました。二つ目の背景は、松阪市では、「職員提案」という制度があり、育児休業を取得した若い男性職員から、そういった女性の社会進出を後押しするような政策を市で作りたい、との提案がありました。

三重県では、「女性起業家応援事業」が、すでに実施されています。そこでは、起業などに意欲のある女性を対象に、セミナー等を開催していますが、市としては、

そういった起業や商売の始め方がわからない、一步を踏み出す境目の方、いわばフェーズ0の方たちに対して、セミナー等で助言をし、人材を発掘していくのが市の役割だと思っています。そういった方々を、県の事業にスムーズに移っていけるような流れ、いわゆる連携をしていくための仕組みを形成していただきたいです。

(知事)

県では、令和3年度の「女性起業家応援事業」において、ビジネスコンテストなども実施し、起業の支援を行ってきました。

「創業・再挑戦アシスト資金」を創設し、約20億円ほどの融資に対して利子補助や保証料補助を行っています。

女性の社会進出は大変重要であり、後押しをしていきたいですが、県では、なかなか細かいところまで目が届きません。市町での、かゆいところに手が届く取組や、人材の掘り起こしをしていただき、連携を図りながら進めていきたいと思っています。

今年度は、女性だけでなくスタートアップを目指す男性も含め、支援を行っています。事業メニューも拡大しており、すでにこの6月末現在で、6億円近い支出を決めています。

大事なのは、多くの人に社会に進出するために、進出しやすい環境を県と市と一緒に作っていきたいと思っています。

対話項目(4) 三井越後屋創業350年に向けた協力について

(市長)

今日は、知事に三井家発祥地を視察していただきました。今年は、三井高利生誕400年にあたります。高利には、15人の子供がいましたが、それを11家に分けて、あらかじめそれぞれの相続分を決めていました。

また、来年は三井越後屋創業350年でもあります。高利は51歳で起業し、そこから19年で日本一の大金持ちになりました。

初めは、松阪木綿でありましたが、世界で初めてブランディングを行い、三井のマークでブランドロゴを作り、チラシなども初めて作りました。三井越後屋、三越と言えば有名ですが、その創業者が松阪出身であることは、残念ながら一般的に知られていません。

松阪市は、松阪牛だけでなく、本当は、歴史や文化がすごいことを知っていただくために、この三井家の記念の年を機に、情報発信し、イベント事業を通じてアピールしていきたいと考えています。

三重県が開設している「三重テラス」は、東京の日本橋にあります。日本橋は、

三井家も当然ですが、伊勢商人と非常に深い関係があり、その伊勢商人のほとんどが松阪出身であります。

三重県にとっても誘客・観光は、大変重要でありますので、ぜひ、県の持つパイプなども活用し、一緒に取り組んでいてもらいたいと思います。

(知事)

本日、三井家発祥地と旧長谷川治郎兵衛家の視察をさせていただきました。長谷川家は非常に立派な建物で、今まで見たことの無い豪華で贅沢なすごくいいものがあるなと思いました。

県はこれから観光に力を入れていきます。三重県には、いい所がたくさんあります。ただ、それを発信する力が弱いのです。その理由の一つとして、お伊勢さんがあり、昔から黙っていても人が集まってくるという背景があります。また、三重県人は、三重のいいところを発信することはあまりありません。「たいしたことないよ」と謙遜する人が多いです。

これから、三重県の製造・生産業を上げていく必要もありますが、人口が減っていく中で、観光の人口を増やし、外からお金を落としていてもらう必要があります。

今後、三重県の魅力を発信していく必要があり、竹上市長は、就任後に旧長谷川治郎兵衛家を一般公開するなど優れた発信力があり、三重県としても一緒に進めていくパートナーとして非常に期待しています。

桑名市に、イギリス人建築家コンドルが設計した作った洋館（六華苑）がありますが、みなさんには知られていません。松阪市の三井家や長谷川家も同じ状況であります。

観光の3つの要素は、食べ物・見るもの（体験）・泊るところです。それが揃っていれば観光客は来ます。松阪市もその要素はあります。三重県でも、観光予算を倍増し、外に発信していきます。あとは、泊るところが課題ですが、そこも取り組んでいきます。

松阪市は、他にも松浦武四郎や本居宣長記念館などもあり、たくさんの発信素材があります。今後、この三井家の記念年をきっかけに、三重テラスではぜひ三井グループの力もお借りしながら、一緒になって発信していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。